

**2021年9月期 通期決算説明会 質疑応答の要旨**

2021年10月28日に開催した2021年9月期 通期決算説明会(機関投資家・アナリスト・報道関係者向け)における主な質疑応答の要旨は下記の通りとなります。

**◆電通グループとの資本業務提携の深化について**

Q1. 提携深化のシナジーによるEPS(1株当たりの当期利益)の成長について

A1. 提携深化による株式の希薄化に対しては、(株)電通ダイレクトの完全子会社化および(株)電通デジタルの持分法適用会社化による利益の取り込みを中心として、初年度から希薄化の相応の部分を補うことが出来るとみている。また、今後の業務提携のシナジーにより、数年で2倍程度のEPS成長を見込んでいる。

Q2. 業績予想の開示について

A2. (株)電通ダイレクトおよび(株)電通デジタルの当社連結業績への取り込みは、2022年9月期の第2四半期からとなり、現状ではシナジーによる業績影響の合理的な算定が困難なため未定としている。今後の開示の予定も未定であるが、2022年9月期の第1四半期、または第2四半期決算を目途とし、なるべく早い段階での開示に努めたい。

**◆2021年9月期の実績について**

Q3. 対売上高収益率の低下について

A3. 収益率の低下は案件特性による一時的な特殊要因によってであり、今後解消されるため、従来の収益率に改善していくとみている。

Q4. マンガコンテンツ事業の進捗について

A4. メディアプラットフォーム事業において、新セグメントへの拡張の投資を除き、3年での黒字化を見通している。その中でマンガコンテンツ事業についても、COVID-19の影響で一時的には落ち込んだものの、課金収益の加速および広告収益の商品構成の見直しにより、損益改善が進んでいる。

Q5. 一時的費用の影響について

A5. 資本業務提携に伴う一時的費用等も含め、利益への影響は数億円程度。新年度に向けて一時的な費用の発生は現状で特段見込んでいない。